

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673600104
法人名	社会福祉法人市比野福祉会
事業所名	グループホーム きままの郷
所在地	鹿児島県薩摩川内市樋脇町市比野3244-1 (電話) 0996-38-2700
自己評価作成日	令和4年11月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者の皆様がそれぞれ自分の望む生活を実現できるように手助けしたいと考え、必要な援助ができるよう心掛けています。ご家族にも普段の生活を知っていただきたいと考え、毎月写真入りで日頃の様子を手紙に書き送っています。行事の際には案内状を差し上げてできるだけご家族にも参加していただき、家族のふれあいを大切にさせていただくようにしています。残念なことにコロナ感染防止のため、直接面会やご家族の行事への参加は遠慮していただいています。入所者の皆さんそれぞれに寄り添う介護を心掛けています。(スタッフが行う作業は手早く行うこと、利用者と一緒に作業はゆっくりと)

事業所は、県内有数の温泉地にあり、同法人の運営する介護老人福祉施設や協力医療機関も隣接している。近くには道の駅やスーパー、コンビニ等もあり、利便性の高い地域に立地している。

事業所は、温泉を引いているため、入浴が利用者の楽しみとなっており、湯量も豊富なため、一人ひとりお湯を入れ替えるほか、シャワー浴や足浴等も積極的に行っている。また、冬至にはゆず湯を提供するなど、温泉の楽しみを最大限に活かしている。入浴後は、丁寧に保湿ケアを行うと共に、水分摂取にも努めて配慮している。

楽しみ事である食事に関しては、現在コロナ禍で外出に出かけることが難しい代わりに行事食や毎日のおやつ等の提供等、喜んでもらえるよう工夫している。また、菜園できゅうりやトマト、ナス、エンドウ等の野菜を利用者と一緒に育て収穫し、食材として利用することで会話にもつながり食事の時間を楽しく過ごしている。

「自分らしく 笑顔いっぱい 安心と尊厳のある生活をしていただく、地域とのふれあいを大切に 地域住民に開かれたホームの運営に努めます」を理念に掲げ、毎朝2ユニット合同での申し送り時に唱和することで理念の意識付けを図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との交流を目指した理念を掲げています。毎朝の申し送り時に勤務者全員で斉唱。食堂の目につくところにも掲示し、実現できるよう職員同士の話題にしています。	理念の中の「自分らしく」「尊厳のある」を大切に、日々利用者と向き合い個別ケアを意識した支援に努めている。また、毎年4月に理念が現状に即しているかを振り返る機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しています。年2回の清掃活動には、新型コロナウイルス感染対策に注意して管理者が参加しました。	自治会に加入し2か月毎に作成する「郷便り」を回覧板に入れて回してもらったり、敷地内にベンチを設けて地域住民に自由に利用してもらおう等、地域との関りを大切に交流している。また、散歩中の挨拶や会話は日常的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議の席で、入所者の行動障害への対応について説明しています。委員である自治会長を通じて、地域の皆様にも伝達しています。新型コロナウイルス感染予防のため資料送付のみになることが多くなっているのが残念です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が開催できた回数は限られていますが、前回の外部評価の結果や改善目標は委員の皆様へ報告しました。	コロナ感染症拡大のため実際に会議を開催することは控え、書面提出に代えていたが、令和4年11月はコロナも落ち着いたため会議を開催した。包括支援センターや在宅介護支援センター、自治会長等が出席し、事業所の活動内容の報告や意見交換等を行うことができた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新や変更申請のため窓口を訪れ、顔見知りになっている担当職員との情報交換を行っています。事故発生時の報告等、電話で相談にのってもらっています。	運営推進会議の資料は市役所本庁に提出しているが、日々、運営する中での相談事や介護関係書類提出の際は支所に出向いたり、電話で助言をもらうことが多い。そのため行政職員と面識ができ、事業所の実情を伝えることができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はありません。毎月の身体拘束委員会でも確認しています。身体拘束についての勉強会を年2回行っています。	「事故、安全、身体拘束委員会」を毎月実施するほか、年2回身体拘束に関する研修会を実施し、スピーチロック等、言葉による拘束についてや行動を制限させないケアの取り組みについて話し合っている。また、利用者が一人で外出しそうな様子を把握した際は見守りを徹底させると共に、外出した場合は付き添う等、自由を妨げないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会には参加するようにし、全職員で共有するようにしています。施設内での虐待は絶対にあってはならないものと職員全員で認識しています。万が一虐待があった場合、すぐに気付くよう利用者一人一人の観察を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学習しています。成年後見制度を利用されている利用者がおられ、担当（司法書士）とは連絡を取り合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には時間をかけて重要事項の説明を行い、家族に持ち帰ってもらって再度読み返していただきます。その上で不明な点や気になることを質問していただき、十分納得されてから記名・捺印していただきます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回行事に合わせて家族会を開催し、ご家族からの意見や要望を聞くようにしています。家族同士の意見交換により、不安の軽減につながっています。利用者やご家族からの意見や要望については改善できるように話し合い、結果は書面で報告しています。コロナの影響で今年も会議は自粛し、資料の送付で報告しました。	年2回実施していた家族会がコロナ禍でできない代わりに、半年毎に半年分の活動内容の報告や運営推進会議資料を送付することで意見や感想をもらっている。また、毎月個別の支援経過記録と写真付き手紙、「郷便り」を送付することで、日々の様子を詳細に家族に報告している。遠方の家族にはこまめに電話で様子を伝え、意向等も伺っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議では、職員が自分の意見や要望を自由に発言しています。出された意見は改善できるよう皆で話し合っています。日頃から、気軽に意見が言い合えるような関係を築いています。	職員会議や申し送り時に限らず、日頃から職員は自由に意見を伝えることができおり、出された意見は解決に向け速やかに話し合い、業務に反映させている。また、勤務表は休日の希望を聞き取り、可能な限り叶えられるよう作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が必要な資格を取得できるよう励ましています。経験年数の長い職員から順次介護福祉士の取得を促し、全職員が有資格者になれるよう配慮されています。職員個々の仕事内容を観察し、優れているところを評価し、努力を認めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時の苑内研修、協力病院での勉強会にも出席しています。外部での研修にもできるだけ出席するようにしています。学習したことは職員会議で報告、全職員で共有しています。資料はファイルして、いつでも閲覧できるようにしてあります。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内や協力施設との定期的な交流を持つことにより、情報交換を行っています。グループホーム協議会に加入しており、必要に応じて市内のグループホームに相談したり連絡を取っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人や家族と面談を行うことにより、信頼関係を築くようにしています。また、施設見学に来ていただき利用者や職員との顔合わせを行うことにより、安心して入所していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に面談を行うと同時に、家族との面談も行っています。ご家族が施設に臨んでいることをお聞きするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が困っていること、不安に思っていることの状態を確認して、改善に向けての話し合いの場を設けています。必要に応じて入所前のケアマネや在宅介護支援センターにも相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴を知り、得意分野を大いに発揮して生きがいを持って生活していただけるよう配慮しています。野菜の育て方や季節の行事（そば打ち、梅干・らっきょう漬け等）を教えてくださいたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の利用者の様子を口頭や文書で報告し、家族と情報を共有できていると思います。身体的・精神的変化があった場合には、可能な範囲で家族に面会をお願いし、または電話連絡で一緒に対応を考えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大前には関連施設のデイサービスセンターから定期的に慰問に行事に誘ってもらっていました。馴染みの方との再会を喜ばれます。地域のイベントにも積極的に参加していました。感染が落ち着けば従来通り参加します。	コロナ禍の為、人との交流や馴染みの場所に出かけることが難しくなりましたが、家族や親戚との面会に応じたり、時間を決めてお寺参りに家族が連れて行く等、感染症対策を十分に行った上で、馴染みの場所に出かける機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間は職員も一緒に会話しながら心身の状態、気分、感情の変化など注意深く観察し、見守っています。利用者同士の関係を考慮しての席も配慮しています。気の合う入所者同士で部屋の行き来もされています。マスク着用をお願いしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所、入院等のため利用が終了した利用者に対して、機会を見つけて面会に行き関係が途切れないようにしています。ご家族に会ったときには利用者の様子を伺い、継続的な関わりをもっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、暮らし方の希望や本心を話していただけるよう努めています。自分らしく生活していただくための最良の方法を、ご家族と話し合っています。	入居時の初回アセスメントにおいて本人、家族の思いを聞き取るほか、入居後も日常生活での会話から意向を把握している。気付いたことは「伝達ノート」に記録したり、申し送り時に伝えることで情報の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで聞くようにしています。入所後もご家族や知人の面会時に、少しずつ把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム（起床・食事・排泄・入浴・就寝等）について把握し、個々に合った声掛けを心掛けています。できることを見つけて働きかけるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや担当者会議、評価等を参考にして計画を作成しています。利用者やご家族からは日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、計画に反映させています。	本人、家族の意向を基本としたケアプランを毎月のカンファレンスや定期モニタリングのほか、毎日のケアプランチェックシートを参考に作成している。また、訪問看護師による意見に加え、主治医からは照会文書により指示や助言をもらいケアプランに反映させると共に、状況に即したケアプラン作成にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況を記録するファイルと、身体状況を記録するファイルを個別に準備し、利用者個々の様子を具体的に記載しています。月末には担当職員を中心にケアプランの評価を行い、見直しの参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて病院受診や外出介助し、個々の利用者の満足度を高めるよう努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前に利用されていたサービス事業者から聞き取りをしたり、在宅のケアマネや面会者からの情報収集を行い、生活に生かせるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に本人やご家族と話し合い、了解を得られれば協力病院をかかりつけ医に決めてもらっています。他の医療機関を希望される場合は、家族同行をお願いしたり看護師が同行しています。急を要する受診時も看護師が同行しています。	入居前のかかりつけ医を把握し、入居後もこれまでのかかりつけ医の受診を支援することができるが、訪問看護や訪問診療が受けられる安心感から、現在は利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員（管理者）が常駐しています。介護職員による日々の記録や状態変化の報告により、必要な対応を取っています。週1回利用の訪問看護師とは気軽に相談できる関係ができています。月に1回は主治医による往診もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関に本人に関する支援方法についての情報を提供しています。洗濯物を取りに行くことを理由に毎日面会に行き病状の把握を行うとともに、早期退院に向けて主治医・看護職員・ご家族との話し合いを頻回に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、希望されれば終末期まで介護することを説明してあります。状態変化があったときには主治医の意見を参考にしながら本人・ご家族の希望を尊重した支援を行っています。必要に応じて訪問看護の利用を行い、ご家族との連絡も密に行っています。	「重度化した場合における対応の指針」「看取りに関する指針」を作り入居時に説明すると共に、状況に応じて「看取り介護についての同意書」により、本人、家族の意向を汲み取っている。これまでに看取りを行ったケースはないが、希望があれば医師や看護師等と共に連携して対応していきたいと考えており、研修会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時マニュアルを準備してあります。職員全員が普通救命講習を受講、また勉強会にも参加しています。感染症対策については協力病院から指導があり、その都度実演しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災や土砂災害を想定した避難訓練には地域の方の参加も呼びかけ、実際に避難誘導もお願いしています。声を掛ければ協力していただける体制ができています。</p>	<p>年2回夜間想定を含む火災訓練を実施している。コロナ禍のため現在、訓練に地域住民は参加していないが、災害時は避難誘導や避難場所での見守りをお願いしている。また、災害時には自治会の放送も活用できるため安心である。備蓄に関しては約2日分の飲料水や食料を一覧表により管理している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗時など、さりげなく声掛けしプライバシーの保護に努めています。利用者個々に応じた言葉を選んで声掛けしています。	プライバシーや接遇に関する研修会を行い、その日着る服を自分で選んだり、トイレへの声掛けについても周囲の方にわからないよう言葉を選び、さり気なく声をかける等、羞恥心に配慮している。また、ポータブルトイレの保管場所にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見を押しつけるのではなく、利用者本人が自分の意思を主張できるよう働きかけています。その日着る服を選ぶ、外出の希望等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のいたい場所、したいことができるよう自由に過ごしていただいています。レクリエーションも利用者の希望を聞くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の好みを大切に、気にいった服を着てもらおうようにしています。外出や行事の際にはおめかししています。爪切りや整髪を心掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭で育てた野菜を調理してみんなでいただき、食堂で過ごす時間等の話題にします。会話しながらの食事を自粛しているため、静かな食事風景です。	コロナ禍で外食に出かけることが難しいため、花見や運動会、敬老会の時はお弁当にしたり、正月のおせち料理やクリスマスメニュー等、季節を感じられる献立を工夫し提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録しています。個々の利用者の状況に応じて量や形態を調整しています。入浴後や外気浴後には水分補給を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行うよう声掛けしています。自分でできない利用者には、必要性を説明し必要な介助を行っています。週2回は洗剤剤を使っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを踏まえて、時間を見計らってトイレ誘導しています。リハパン使用者に対しては汚染による尿路感染を防ぐため定時での交換、随時見直しを行い自立支援に取り組んでいます。	排泄チェック表を参考にしたり、トイレに行きたい素振りに気付いた時等に、さり気なく声を掛けトイレに誘導している。夜間は睡眠を妨げないように、容量の多いパットを使用する等、個々の状況に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分摂取の勧め、DVD視聴による体操等、身体を動かすことにより自然排便を促しています。トイレでのウォシュレット使用、腹部マッサージも実行しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	できるだけ利用者の希望される順番や時間に合わせて入浴していただいています。体調の悪い時には清拭や足浴で対応します。	温泉地という地域柄、事業所も温泉を引いており利用者に喜ばれている。週3～4回の入浴を基本とし、シャワー浴や足浴にも対応するほか、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外気浴やレクリエーションへの参加を促すことにより、日中の生活リズムを活性化させ安眠の支援を行っています。眠くなるまで職員と一緒に過ごされる利用者もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用する薬の目的や副作用について把握しており、きちんと服用できるよう手渡しして、確実に服用できるよう見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の役割や出番を見出し、活動の場面を作り出しています。（下膳・洗濯物干しとたたみ・園芸等）梅干しやらっきょう漬、そば打ち等、経験や知恵を発揮してもらっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染のため外出行事を控えています。状況が変わり自由に外出できるようになったら、本人の希望を聞きながらの外出支援をしたいと考えています。	外食や地区の文化祭、よさこい祭り等、地域行事に出かけたり、個々の希望に合わせて自由に出かけていたが、コロナ禍の現在、外出する機会が限られてしまっている。そのため外出はドライブが多いが、ストレスが生じないよう散歩の機会を増やしたり、どのような活動がよいか話し合いながらレクリエーション活動の充実を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の可能な利用者には財布を持ってもらうようにしています。職員に必要な買い物を頼まれることもあります。自分での買い物希望は今のところありません。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>居室や食堂で自由に電話を掛けたり受けたりされています。ご家族からの手紙やはがきはすぐに本人に渡しています。携帯電話でご家族と連絡を取られる利用者もおられました。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>中庭には季節の花や野菜を利用者と職員と一緒に植え付けています。レクの時間を利用して、四季折々の飾りを作り、共有スペースに飾って季節感を感じていただいています。空調（温度・湿度）をこまめにチェックし、快適で居心地の良い環境を提供しています。</p>	<p>建物の外観から玄関、フロア等、和の造りになっており、温泉を引いていることもあり旅館にいるかのような印象を受ける。フロアや廊下の陽当たりはよく、廊下にはベンチを置いてくつろげるようになっている。また、季節毎の作品を掲示したり、生け花を飾ることで四季を感じる事ができている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の決まった自分の席だけでなく、廊下やテラスのベンチなど思い思いの場所で過ごされています。仲の良い利用者同士で寛がれている姿が見られます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や小物等を持ち込まれています。家族の写真も飾られています。寝具は、自宅で使われていたものを持ち込まれています。	電動ベッドやエアコン、洗面台やクローゼット、タンスが備え付けられ、仏壇やリクライニングチェア、書物等、自宅から持ち込まれた馴染みの品を居心地よく自由に配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下には転倒防止のための手すりが設置してあり、移動時に支えられています。歩行に不安のある利用者にはシルバーカーや歩行器を利用して利用していただいています。トイレの場所のわからない利用者のため、廊下に手書きで表示しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない